

厚生常任委員会だより

行政視察の実施

平成25年10月21日から23日にかけて、東京都練馬区、東京都調布市、京都府京都市の行政視察を行いました。

■東京都練馬区「社会福祉事業団への施設無償貸与について」

本市における社会福祉事業団への施設無償譲渡の審査を進めるに当たり、練馬区の施設無償貸与方式とした考え方やメリットを参考とするため視察を行いました。

練馬区では、区立施設の安心を継承し、施設運営への区の関与を確実に行うとともに、将来的にも区有財産の有効活用を図ることができる方式との考え方から施設を無償貸与としています。

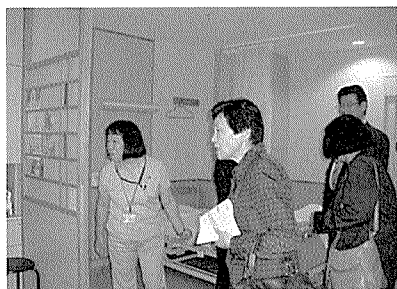
事前に大規模改修を行った上で無償貸与していますが、その後の大規模改修も区の負担、その他は事業団の負担としています。

運営面では、基準を上回る職員配置の継承とともに、方向性や考え方をまとめた協定書を締結して

おり、また、意見交換の場も設定しています。

平成23年の無償貸与後も安定した経営状態を維持し、平成25年4月には独自の特別養護老人ホームを開設しています。

無償貸与の考え方など、本市の事業団への無償譲渡を審査する上で参考にするべき点が多く、意義ある視察となりました。



▲田柄特別養護老人ホーム

た結論を出すために、視察結果を活かしたいと考えています。

■京都府京都市「一般廃棄物処理基本計画について」

一般廃棄物減量やリサイクルの先進的取り組みを学び、本市の廃棄物処理の今後のあり方の参考とするため視察を行いました。

調布市は、平成25年度に焼却施

設ができるまでの間、ごみ処理は他の自治体に処理をお願いしていました。そのため、ごみの減量化に積極的に取り組み、ピーク時の7万2千トンから6万トンまで減量しました。平成16年度から有料化を実施しましたが、資源物は無料にし、リサイクルを推進しています。市民への啓蒙活動を重視し、せん定枝の資源化や焼却灰のエコセメント化など、徹底した資源化を実施しています。リサイクル率は全国トップ3を維持しています。

ごみ出しが困難な高齢者への対策や、おむつ利用者への無料袋での回収など、優遇制度の充実とともに、資源化へ向けた特徴ある取り組みに驚きました。予算と人を配置した積極的な環境対策は、本市でも見習う必要があると感じました。

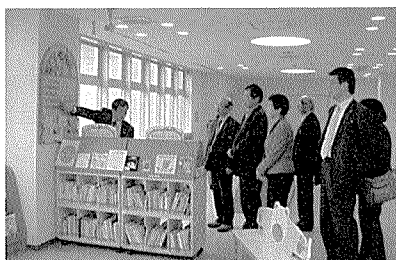
■京都府京都市「乳幼児の子育て支援の推進について」

乳幼児の子育て支援総合推進拠点として開設した「子育て支援総合センターこどもみらい館」の設立目的や取り組みを学び、本市の子育て支援に活かす事を目的に視察を行いました。

少子化の進行や核家族化などの社会構造の変化と地域コミュニティの希薄化の中で、子育てする母親が不安感や孤立感を感じています。こうした中で、子どもに対する知識と技術と経験を一番持っているのが幼稚園と保育園です。幼稚園と保育園が互いの知恵を交換するとともに、弱点を補い対処していく核として「こどもみらい館」が開設されました。

保育園と幼稚園、私立と市立・国立の垣根を越えた「共同機構」を作り、来館者が一日1、300人を超す館の運営と、研究・研修事業を展開し成果をあげています。また、館の運営を支えるボランティアが多数いることも特徴です。

京都市では、民間と行政が対等の立場で「共同機構」を作るという画期的な取り組みで成果をあげています。こうした組織作りについて検討する必要性を感じました。



▲こどもみらい館